

真田地域農業戦略プラン

(平成24年度～28年度)



真田地域農業戦略プラン策定委員会

平成23年10月

真田地域農業戦略プラン策定委員会 委員名簿

役 職	氏 名	所属団体等
会 長	堀内 仁	旧日だまりの里活性化組合
副会長	横沢 正勝	前 JA 真田地区代表理事
委 員	堀内 広世	JA 真田統括支所長
委 員	橋場 秀俊	旧(財)上田市真田の郷振興公社
委 員	桜井 昭雄	農業委員(振興部会)
委 員	伊藤 忠成	認定農業者(野菜) 菅平野菜活性化組合
委 員	杉山 明	I ターン・認定就農者(果樹)
委 員	田平 和彦	I ターン・新規就農予定者 (水田)
委 員	田中 新平	風屋豆腐店(食品衛生協会)
委 員	山口 市江	生産者(花・野菜)
委 員	大久保幸子	生産者(野菜・直売) JA 理事
委 員	田中 守	真田営農センター長
委 員	桐崎 力	上小農業改良普及センター
委 員	小林 徳雄	営農企画専任推進員

農業戦略プラン策定の目的

旧真田町地域の農業の特色は、菅平高原とそれ以外の地域（以下「真田地域」という。）とに分けることができます。

菅平高原は、「高品質な高原野菜の郷“信州菅平高原”」として、レタス、白菜を中心に品質の高い高原野菜の産地として全国に名を馳せております。将来に向け、さらに高原野菜のブランド化を図り、他の地区と差別化された競争力のある農業振興施策を実行しています。大規模専業農家・後継者も多く、更なる農地の集約化と経営規模拡大を目指しています。

一方、真田地域では、一部の大規模専業農家を除き、小規模経営・兼業農家が多く、さらに高齢化が進み農業の担い手不足・遊休荒廃地の増加と農業を取り巻く環境は厳しく、その対策と対応が課題となっています。

また、菅平高原及び真田地域の農業の共通する課題として、有害鳥獣による農作物への被害があげられ、その対策については、地域の猟友会だけでは対応しきれない状況が間近に迫っています。

真田地域農業戦略プラン策定委員会では、真田地域の農業の現状を見直し、問題点・課題等を明らかにすることで、これからの農業振興施策を検討してきました。

この農業戦略プランは、農業を取り巻く多くの課題の中で、実践可能なプランを絞り込み具体的な行動・施策を策定し、優先順位を設けて計画的に実践していくことが重要と考えます。

「真田氏発祥の郷」として真田地域の歴史、文化、伝統、自然環境など恵まれた観光資源と農業とが連携を図り、真田地域の特色を活かした農業振興施策を具体的に実践することで、農地を守り、農家の皆さんが安心して農業に取り組み、そして、真田地域が注目される農業を目指し、真田地域観光戦略プランと連携を図りながら、農業振興を実践していくことを農業戦略プランの策定の目的とします。

農業戦略プランの3つの柱

1 「そばの郷真田」を目指します。

2 マーケティング戦略を推進します。

3 有害鳥獣対策を推進します。

基本戦略 1 「そばの郷真田」を目指します。

- そばの作付け、生産量を上げ、遊休荒廃地を解消し、そばの販売・消費を向上させていきます。そばの生産量を拡大し、ゆきむら夢工房、真田地域内のそば店及び姉妹都市の九度山町（和歌山県）へ安定的に供給することを目指します。
- 真田地区営農活性化組合等へ呼びかけ、機械化組合・農事組合法人等を設立し、播種→収穫→管理（品質の保持：乾燥方法、貯蔵方法等）→製粉（石臼・ロール式等）→販売・消費の一連のサイクルを実践するための設備の導入を支援します。
- そばの生産量を上げることを目標とし、夏そばの作付けへの取組み、品種（しなの夏そば・蕎麦信濃1号等）の選定を上小農業改良普及所、長野県野菜花き試験場と連携し真田産そばのブランド化を図ります。

基本施策 1 そばの生産を増やすための仕組みづくり

真田地域の農地の遊休荒廃化の防止、食料自給率の向上及び地産地消の推進を図るため、水田・畑への奨励作物として、「そば」を選定し、栽培、出荷に対して奨励金を交付します。また、国道、主要地方道、史跡めぐりのルート沿いの景観向上を目指すため、そばを奨励し、栽培・出荷に対して奨励金を交付します。

機械化組合・農業組合法人等を立ち上げ、遊休荒廃農地を活用・解消し、そば栽培から収穫までの体制整備を支援します。将来的には製粉までを行える体制づくりを目指します。

○具体的な施策

- ① 真田地域奨励作物支援事業奨励交付要綱作成（そば）
- ② 機械化組合・農事組合法人等の設立
- ③ 必要な農機具（コンバイン・移動用運搬車）の購入補助。管理方法の検討（乾燥機の選定）・貯蔵方法の検討。製粉機の導入
- ④ 菅平・長・傍陽・本原地区のそば作付け候補地選定（耕作放棄地の再生利用対策事業の活用。点在する遊休荒廃地を把握し、そばの作付けを奨励。）

○観光戦略プランとの連携

- ① ゆきむら夢工房の観光拠点施設強化整備への早急な取組（そば処の開設等）
- ② 地元のそば屋への真田産そば粉の提供を行い、地粉によるそばの提供のできるそばの郷を目指します。
- ③ 幹線道路及び周遊コース沿線への景観作物（そば）植栽

基本戦略2 マーケティング戦略を推進します。

- 食品事業者（加工・飲食店等）、観光事業者（宿泊施設、お土産、観光施設）、流通業者（卸売業者、小売業者）、行政施設（長野県、新鮮市真田、ゆきむら夢工房）との連携強化を図り、インターネットを活用し、販路拡大を目指します。
- 大豆・枝豆の生産量を上げ、遊休荒廃地を解消し、真田産豆腐・枝豆の販売・消費を実践します。
- りんご・桃・梨・花き、菌茸等を、農業生産団体等（果樹生産農家、青葉会、真田三代リンゴ隊、特産果樹研究会等）による安心・安全な作物を生産し、継続的に安定した事業展開を目指します。
- 果樹（ブルーベリー・山すもも等）の販路を直売所の他、真田産がひと目で分かるキャラクター・ロゴ等の添付し、販売・販路の拡大を目指します。

基本施策2-1 販路拡大の仕組みづくり

真田地域の果樹は、りんごを代表としてこの地域の気候を活かし、品質が良い物が収穫できます。これら既存の商品のブランド化の確立に加え、真田三代ブランド^(※1)をイメージできる新商品、真田産品にこだわった新商品の開発及び加工食品の開発をすることで、真田地域の食の魅力の充実を図ります。そのためにも、販売戦略を見直し、企業への出向販売やマスメディアの活用等、効果的な手法を取り入れた販売活動を展開します。

また、ゆきむら夢工房を中心にホームページによる情報発信を充実させ、新たな販路拡大に取り組みます。

※1 「真田三代ブランド」：真田地域が誇る魅力ある素材「人、歴史、文化、伝統、水や森林といった自然環境、食」などの全てを指し、「信州上田市真田のブランド」として県内外に発信し、特産品の販路拡大や交流人口の増加などに繋げることにより、産業全体の底上げを図ります。

基本施策2-2 果樹園地の継承を円滑にできる仕組みづくり

高齢化の進行・後継者がいない等により生産性のある果樹園地を荒らす（伐採する）ことなく、継承していくための仕組みが真田地域には必要です。いち早く規模縮小や経営を廃止する農家を事前に把握していくことで、果樹園を引き受けてくれる新たな担い手の確保・育成に役立てるため、個別に果樹園地所有農家の経営意向調査が必要です。

これから、果樹に取り組もうとする若者、新規就農者に向けて、成園の取得・利用のマッチングができるよう推進していきます。

○具体的な施策

- ① 真田地域奨励作物支援事業奨励交付要綱作成（大豆・枝豆）
- ② 販売PRの補助（マーケティング戦略検討→予算執行→戦略見直し）
- ③ JA、上小農業改良普及センター等との情報連携による農家支援、果樹新わい化、新品種への苗木補助（既存制度の活用：3割補助）
- ④ 果樹園地継承円滑化のための高齢者農家の聞き取り調査（果樹園地のスムーズな継承・新規就労者への継承を実践するためのマッチングを整備）
- ⑤ 観光農園の充実と情報発信
- ⑥ ゆきむら夢工房での加工食品の開発と販売

○観光戦略プランとの連携

- ① 真田三代発祥の郷の味マップの作成
- ② 良質な真田産農産物の販売組織の育成・充実
- ③ りんご及び米を中心として農業体験や加工体験受入組織の育成・充実
- ④ 加工商品の研究・開発
- ⑤ ゆきむら夢工房を活用した情報発信受信基地の整備
- ⑥ 真田三代ブランドの研究・開発

基本戦略 3 有害鳥獣対策を推進します。

○鳥獣被害から農地・農作物を守り、農家のみなさんが、安心して農業に取り組める環境整備を目指します。

基本施策 3 有害鳥獣被害を防ぐ仕組みづくり

菅平高原及び真田地域の農業に共通する課題として、有害鳥獣による農作物への被害があげられます。せっかく丹精こめた農作物が鳥獣被害にあうことで農家の生産意欲も減退してしまいます。農業戦略プランを実行するうえで有害鳥獣対策は、重要な課題の一つとして取り組まなければなりません。

○具体的な施策

- ① 被害防除から、猟友会等との協力により捕獲・個体数調整を重点的に推進
- ② 既存の電牧柵の設置補助に加え、地域ぐるみで防護柵（国庫負担による原材料支給）の設置を積極的に推進し、山林と農地との境界を伐採して緩衝帯を併せて整備
- ③ 狩猟免許取得の確保・育成に努め、猟友会員加入促進のための担い手の育成支援








資料編

そばの作付け・収穫工程（戦略プラン）

転作施策による将来目標	H 2 0	H 2 1	H 2 2	H 2 3 (見込)	将来目標
水田から転作面積 (ha)	5.4	5.0	6.2	6.7	8.0
収量見込み (t) : 単収 (60kg/10a)	3.24	3.00	3.72	4.02	4.80
前年度比率 (%)	—	92.6%	124.0%	108.1%	119.4%

農作業委託の現状から将来目標 (JAの委託量数値から)	H 2 0	H 2 1	H 2 2	H 2 3 (見込)	将来目標
そば刈取受託面積 (ha)	6.27	4.62	6.60	7.00	16.00
(うち 菅平分) (ha)	0.97	0.97	1.30	1.30	1.30
受託人数 (戸)	24	24	29	35	65
乾燥調整後の量 (t)	3.0	2.8	4.4	4.6	10.4
単収 (kg: 10a 当たり)	47.8	60.6	66.7	65.7	65.0
袋数 (22.5kg/袋)	134	123	196	202	462
自己取り量 (t)	0.46	0.51	0.71	0.71	1.40
売渡し・収穫数量 (t)	2.6	2.3	3.7	3.8	9.0
売渡し先	・振興公社	・振興公社	・振興公社 ・JA(小泉)	-	真田そば店 6t ゆきむら夢工房 1t 九度山町 2t

戦略プランスケジュール(そば・大豆)

品目・年度	H24	H25	H26	H27	H28	備考
そばの奨励						
(目標作付け面積) (畑+水田)	10ha	11.4ha	12.9ha	14.5ha	16ha	※H22数値: 水田の作付け6.6ha
大豆の奨励						
(目標作付け面積)	15.2ha	16.0ha	17.0ha	17.8ha	18.6ha	※H22数値: 14.5ha
コンバイン						
乾燥機 (建屋を含む。)						
製粉機等						
保冷库(貯蔵庫)						
機械化組合等設立						

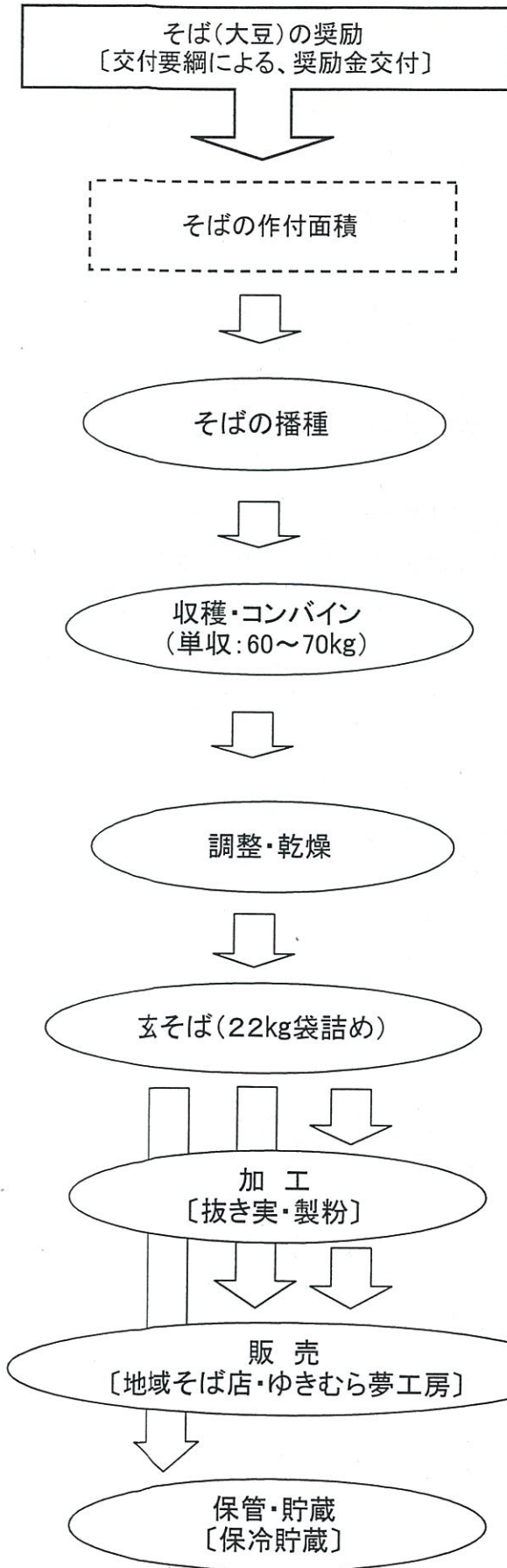
真田地域奨励作物支援事業（奨励金交付見込）

	単価	平成24年度			平成25年度			平成26年度			平成27年度			平成28年度		
		面積 (h a)	出荷(見込) (k g)	奨励金 (円)	面積 (h a)	出荷(見込) (k g)	奨励金 (円)	面積 (h a)	出荷(見込) (k g)	奨励金 (円)	面積 (h a)	出荷(見込) (k g)	奨励金 (円)	面積 (h a)	出荷(見込) (k g)	奨励金 (円)
そば(水田)	円/kg	7.0	4,550		7.3	4,745		7.5	4,875		7.8	5,070		8.0	5,200	
そば(畑)	円/kg	3.0	1,950		4.1	2,665		5.4	3,510		6.7	4,355		8.0	5,200	
計		10.0	6,500		11.4	7,410		12.9	8,385		14.5	9,425		16.0	10,400	
大豆(水田)	円/kg	4.2	6,300		4.5	6,750		5.0	7,500		5.3	7,950		5.6	8,400	
大豆(畑)	円/kg	11.0	16,500		11.5	17,250		12.0	18,000		12.5	18,750		13.0	19,500	
計		15.2	22,800		16.0	24,000		17.0	25,500		17.8	26,700		18.6	27,900	
合計		25.2	29,300		27.4	31,410		29.9	33,885		32.3	36,125		34.6	38,300	

※ 単収見込(10a当たり) そば: 65kg 大豆: 150kg

※ 戸別所得補償制度が継続されたものと見なしての試算。

そばの作付け・収穫工程（戦略プラン）



現況 6.5ha → 目標 16ha

戦略プラン

- ・目標達成のための用地選定
(遊休荒廃地の団地、点在する遊休荒廃地の選定等)

戦略プラン

そば播種機械の導入

戦略プラン

- ・そば刈取機械の導入
- ・機械化組合、農事組合法人の立上
(リーダー(人材)の養成、組織形態の検討等)

戦略プラン

石抜き・乾燥機等の導入

戦略プラン

- ・各種加工用機械の購入の導入補助
- ・各種加工用機械の建屋の建設

戦略プラン

- ・ゆきむら夢工房「食事処」へ供給
- ・地域内の各そば店・九度山町へ供給
- ・各種加工用機械の建屋の建設

課題

- ・貯蔵庫の選定、用地確保等
(ゆきむら夢工房: 保存庫2t弱)

1 品 種

(1) 品種選定の留意点

ア 春播き（夏ソバ栽培）

しなの夏そばを用いる。

イ 夏播き（秋ソバ栽培）

信濃1号、タチアカネ、信州大そば、しなの夏そば、開田早生が使用できる。

(ア) 信濃1号は、初霜の被害を受けない限り、遅播きで結実がよい（生育日数70日前後）。

(イ) しなの夏そばは夏型の品種であるが、秋ソバとしても栽培が可能であり、この場合、播種後50日程度で収穫できる。

(ウ) タチアカネの生育相（開花期、開花最盛期、成熟期）は信濃1号とほぼ同等なので、信濃1号を栽培している地域で導入が可能である。赤果皮の特性が他品種に影響を及ぼす恐れがあるので、隔離栽培（既存品種が見渡せる限りに無いか、300m以上距離を空ける）により、集団的に行う。

(エ) 信州大そばは信濃1号より晩生で、適期播種を行えば、信濃1号より10日程度遅い収穫となる（生育日数80日前後）。

(オ) これらの品種の栽培が不適な高冷地（木曾郡開田村等）には、開田早生が適する。

(カ) 大規模栽培等では、熟期の異なる複数の品種を組み合わせて栽培することにより、作業分散が可能となる。その場合、交雑や収穫乾燥調製時の種子混入に注意する。

ウ 在来種

奨励・認定品種の栽培が困難な地域では、現地の在来種の栽培が適している場合もあるので、地域にあった在来種を選定する。

エ その他

近年、景観形成等の目的で赤花等のソバが導入される場合があるが、これらの品種は従来の奨励・認定品種や在来種とは特性が大きく異なり、近接して栽培すると交雑や混入により特性が変化することが考えられる。

特に、採種栽培や従来品種の収穫物を種子として利用するような場合には、交雑や収穫時の種子混入等が起きないように、隔離栽培（既存品種が見渡せる限りに無いか、300m以上距離を空ける）や収穫、乾燥、調製の各種機械類の清掃等、十分な注意を払う。

また、自家採種を繰り返すと奨励・認定品種の特性が変化して低収量、低品質となる事例があるので、定期的に種子更新を実施する。

7 そばの部

野菜花き試験場 (旧中信農業試験場) (標高750m) における成績

品種名	来歴	育成地	採種年 及 公認 品種 年次	生 産 型	播 種 期 月 日	開 花 期 月 日	開 最 盛 期 花 期 月 日	成 熟 期 月 日	草 丈 (cm)	第 一 次 収 穫 数 (本)	10a 当 子 重 量 (kg)	容 積 重 量 (g)	千 粒 重 (g)	花 色	果 皮 色	品 質	特性並びに栽培上の注意	適応地帯
しなの夏そば	木島平在来 から集団選 抜	長野県諏訪 中信農試	奨励 昭54	夏 型	5.15	6.16	6.27	7.17	91	2.6	26.2	602	32.4	白	黒	中上	極早生、短稈の夏型品種。花の密度が高く、多収である。基本的には春播き(秋そば栽培)に用いる。鳥害をおよぼす小鳥(カワラヒワ等)の棲息地帯では、乳熟期以降の防鳥対策が必要である。夏播き(秋そば栽培)用にも使用でき、この場合、50日程度で成熟する。	一部の高冷地を除く県下全域
蕎麦信濃1号	福島県の在 来種から系 統選抜	長野県諏訪 地	奨励 昭19	中 間 秋 型	8.4	8.30	9.12	10.10	107	3.0	19.5	603	30.7	白	黒 褐	中上	中生・中稈の中間型品種。広域適応性が高い。夏播き(秋そば栽培)に用いる。初稈の被害を受ける前に成熟するように播種期を設定する(生育日数70日前後)。	一部の高冷地を除く県下全域
信州大そば	信濃1号の コルヒチン 処理個体か ら選抜	信州大学	認定 平2	中 間 秋 型	7.31	8.29	9.16	10.20	119	3.3	19.6	544	48.1	白	黒 褐	中上	四倍体の中間型品種。草丈が高く、分枝も多く、茎葉重が高い。個体当りの花房数が多く、千粒重も高い。ため多収であるが、製粉歩留りがやや劣る。夏播き(秋そば栽培)に用いる。生育日数が80日前後と晩生のため、信濃1号の播種適期より10~20日前に播種する。	一部の高冷地を除く県下全域
開田早生	開田在来か ら集団選抜	長野県 長 中 信 農 試	認定 平14	中 間 秋 型	8.4	8.29	9.10	10.7	101	2.9	22.2	610	29.5	白	黒 褐	中上	奨励品種(信濃1号等)の栽培が不適な高冷地での夏播き(秋そば栽培)に適した中間型品種。開花・成熟期は、しなの夏そばと信濃1号の中間に位置する。木曾町開田高原(標高1000m~1200m)における播種適期は7月20日前後である。	奨励品種(信濃1号等)の栽培が不適な高冷地帯(木曾町開田高原等)
タチアカネ	白田町在来 から集団・ 系統選抜	長野県 長 中 信 農 試	認定 平21	中 間 秋 型	8.4	8.29	9.10	10.10	111	2.7	20.6	627	33.0	白	黒 褐(成熟時)	中上	生熟型、収量は信濃1号と同等の中間型品種。耐倒伏性に優れる。また、ゆで麺色の評価と千粒重、容積重が信濃1号より高い。乳熟期の果皮色が赤くなる個体が多く、9月中旬〜下旬頃目立つようになる。	一部の高冷地を除く県下全域

※採種方法: 播種量: 5kg/10a、若しくは150粒/m²、栽培形式: 畦幅30cm・条播、施肥量: N 2.5、P₂O₅ 2.5、K₂O 2.0
※データは、平成5年~22年の18年間の平均値。ただし、信州大そばは平成11年を除く17年間、開田早生は平成7年~8年及び12年~22年の7年間の平均値。

3 大豆の部

野菜花き試験場 (日中信農実業試験場) における成績

品種名	両親名	育成地	繁殖及び認定品種	開花期(月日)	成熟期(月日)	主莖長(cm)	分枝本数	10a当子実重量(g)	百粒重(g)	耐倒伏性	花色	粒形	種皮色	臍色	紫斑病抵抗性(粒)	ウイルス病抵抗性	ダイズシストセンチュウ抵抗性	品質	特色並びに栽培上の注意	適応地帯
あやこがね	ホウレイ エンレイ	長野 中信農試	認定 平16	7.27	10.12	63	5.7	307	30.7	強	紫	球	黄	黄	強	強	弱	上下	早生。中莖で倒伏少ない。大粒・良質で穂粒が極めて少ない。加工用途が広い。ウイルス病に抵抗性。シストセンチュウに弱いので、適正な輪作を行う。	高冷地(標高) 中山間地(標高・低地) 低地(標高) 低地の積雪地域(標高)
すずこまち	納豆小粒 タチユタカ	長野 中信農試	認定 平13	7.31	10.6	80	7.4	343	14.0	中	紫	扁球	黄	黄	強	強	弱	上下	早生。長莖で難倒伏性。小粒良質で穂粒が極めて少ない。納豆加工用途が広い。ウイルス病に抵抗性。シストセンチュウに弱いので、適正な輪作を行う。	高冷地(標高) 中山間地(標高・低地) 低地(標高) 低地の積雪地域(標高)
すずろまん	納豆小粒 東山系 U455	長野 中信農試	認定 平9	8.3	10.15	74	11.5	381	10.6	中	紫	球	黄	黄	強	強	弱	上下	中生。長莖で倒伏が多い。小粒良質で穂粒が極めて少ない。子実球形で外縁がよく、納豆加工用途が広い。ウイルス病に抵抗性。シストセンチュウに弱いので、適正な輪作を行う。	中山間地(標高・低地) 低地(標高) 低地の積雪地域(標高)
タチナガハ	東山61号 東山系 G627	長野 中信農試	奨励 昭61	7.28	10.13	64	6.0	337	33.2	強	紫	球	黄	黄	強	中	弱	上下	中生。中莖で倒伏少ない。晩播適性が高く、乾粒率が高く抽出する。大粒で良質。ウイルス病にやや弱いので穂粒粒の発生を防ぐため、健全種子を使用し、アブラムシ防除を励行する。シストセンチュウに弱いので、適正な輪作を行う。大粒種であるので莢実害虫の防除を適期に行う。	中山間地(標高・低地) 低地(標高) 低地の積雪地域(標高)
タチホマレ	アヤヒカリ 長交1-28F1 (材料/竹 片)	長野 中信農試	認定 平18	7.26	10.11	58	6.6	332	29.4	強	強	扁球	黄	黄	強	強	弱	上下	中生。やや短莖で倒伏が少なく、成熟後の枯れ上がりが多い。密植栽培で増収する。ウイルス病に抵抗性。シストセンチュウに弱いので、適正な輪作を行う。大粒種であるので莢実害虫の防除を適期に行う。	中山間地(標高・低地) 低地(標高) 低地の積雪地域(標高)
ギンレイ	東山系 N802 スズユタカ	長野 中信農試	奨励 平7	8.2	10.18	77	7.9	348	30.2	強	紫	球	黄白	黄	中	強	弱	上下	晩生。長莖で多葉性。倒伏が少なく、大粒。良質で穂粒が極めて少ない。ウイルス病に抵抗性。シストセンチュウに弱いので適正な輪作を行う。大粒種であるので莢実害虫の防除を適期に行う。	中山間地(標高) 低地(標高)
ナカセンナリ	ほうじやく ネマシラス	長野 中信農試	認定 平7 (奨励 昭3)	8.2	10.17	80	9.4	372	27.6	中	紫	球	黄白	黄	やや強	中	強	上下	晩生。長莖で分枝多く多葉性。中粒で良質。シストセンチュウに強く、立枯性病害が少ない。経年劣化強。シストセンチュウ発生時では多粒密植とする。ウイルス病に抵抗性。シストセンチュウに弱いので、適正な輪作を行う。アブラムシ防除を励行する。	中山間地(標高) 低地(標高)
つばほまれ	東山140号 タチナガハ	長野 中信農試	認定 平15	7.31	10.23	77	5.5	273	36.4	強	紫	楕円	黄	黄	中	強	弱	上下	晩生。長莖で分枝やや少ない。倒伏が少なく、着実位置が高い。極大粒。良質で穂粒が極めて少ない。加工用途が広い。ウイルス病に抵抗性。シストセンチュウに弱いので、適正な輪作を行う。極大粒種であるので、莢実害虫の防除を適期に行う。	中山間地(標高) 低地(標高)

※判別方法：播種基準日6月1日。穂高初産：穂長75cm、株間14.8cm(中生種、小粒種)または16.7cm(中晩生種)。1株1本立、800~900本/a。
※データは、平成20年~22年まで過去3か年の平均値。ただし、すずこまちは平成18~20年の平均値。

果樹経営意向調査票

市町村 上田市

調査員

No.	字・地番	地目	面積	所有 買主	品目	品種	栽培 方法	樹 齢	設備 状況	果樹栽培の今後の意向			継いで継承しますか （「買戻し」と回答した方のみ）				「買戻し」と回答 した方のみ		特記事項
										中止せらばどうしますか （「栽培中止」と回答した方のみ）			継いで継承しますか （「買戻し」と回答した方のみ）				現状 のまま （改植は しない）		
										3 年後	5 年後	1 0 年後	買 戻 し	買 戻 し	買 戻 し	買 戻 し	買 戻 し	買 戻 し	
1																			
2																			
3																			
4																			
5																			
6																			
7																			
8																			
9																			
10																			

栽培中止の理由：了栽培を任せざる者がいない
 設備などの更新が困難
 果樹園の生産性の低下
 ①優良品種でない ②収量が少ない ③品質が悪い ④その他()
 工栽培環境
 ①自宅から遠い ②進入路がない、狭い ③日照条件が悪い ④土壌条件が悪い
 ⑤排水条件が悪い ⑥急傾斜地 ⑦凍霜害 ⑧鳥獣害 ⑨形状が不整形
 ⑩区画が小規模 ⑪その他()

この調査の内容については、長野県農業開発公社、市町村役場、市町村農業委員会、JA、農業改良普及センターで情報共有してまいります。

平成 年 月 日

(署名) 住所
氏名

生年月日 明・大・昭 年 月 日 (年齢 才)

電話番号

認定農業者認定状況 認定 未認定

